

「權」展

2023.10/18(水)~31(火)

●アートホール東洲館
10:00am~6:00pm(最終日4:00pm) 毎月曜休館

2023.11/7(火)~12(日)

●ギャラリー大通美術館 A室・D室・E室
10.00am~6:00pm(最終日4:00pm) 毎月曜休館

「權」は前進の道具。発足して20年。どこに行きつくのか、今だ試行錯誤が続いています。当初7人だったメンバーの1人が逝きました。しかし、個々が作品に対峙し、実験し、さらに模索していく「個」の集団としての姿勢は持ち続けて行きます。

- 「權」の七人のメンバーは「全道展」の中核として活躍してきた仲間です。
- 權展連絡先 深川市1条9番19号経済センター2F 深川アートホール東洲館 渡辺貞之

それぞれの記

梅津 蕙



初期の「權」は良く合宿して「權の在り方」について語り合った。今では集まれば病気の話になり、合宿の意味を失ったが、仲間一人一人が充実した仕事を続ける限り、これからも魅力的な展示であり続けるだろう。

川本ヤスヒロ



2018年12月18日から一日も休まず「自画像デッサン」を続けている。自画像の制作は朝食前の時間帯が多く、その日によってはクロッキーをすることもある。雨天の日などは石狩の風景を描く時間に「自画像のデッサン」を行っているから、自画像の制作時間が多くなっている。自画像は、私にとって自己確認、自己探求、自己変革である。数年前から発表している「ベートーヴェンの散歩道」のシリーズや最近探求しているテーマ「道」にも自画像を登場させている。自画像を何枚描いても飽きるということはない。次から次へと追求したい。これで良いということがないのである。また、明日も描きたい!

斉藤嗣火



今年の夏は記録尽くしの猛暑だった。何をすることも初動々作が鈍り、効率も悪い。早めに張ってあったキャンバスも白のまま手つかず。隣の店頭には満開のアサガオと風鈴。視覚的に観れば涼しげで純日本風の好ましき風情。しかしこの風鈴、時に熱風を受け気が狂れた様に鳴り響き耳から入る音は片方から抜けていくことなく脳内にどんよりと沈殿し、気持ちを逆なです。隣のものだから取り外すこともできない。そんな日々も、いつの間にか風鈴は姿を消し、アサガオも手の届かないほどの高いところで二輪ほど咲いているだけ。もうこれ以上、暑さを言い訳にする口実が無くなってきた。そろそろキャンバスに向かわなければ。

田崎謙一



例年になく大変な猛暑に、命にかかわるという言葉も大げさではない気持ちにさせられる。さすがに体がばて気味であるのと、98歳の母の介護で尚のこと家から外出することが少なく、閉じ籠りがちの生活になってしまった。庭の鉢植えの花々に朝夕灌水し、蕾が膨らみ、花が咲き、どこからともなく蜜蜂が寄って来る光景にささやかな喜びを感じつつも、時代の嫌な空気に癒されない気持ちを抱きつつ、作品を描くことの答えの出ない意味を問い続ける日々です。

福島孝寿



近頃はすっかり描く数が減ってしまっていて、權展が近づくと何を描こうか考える。架台の上には以前と同じ構図であっても全然別の作品が乗っている。私が思うに、他人と違った表現技法・表現スタイルこそが個性なのだろうが、そのスタイルは考えて作り出すのではなく、対象の中に何を見付け、何を選び取って描いたか、自身が気が付かなくとも他人から見えたその結果こそが個性かと思う。今年の夏はいつまでも暑いし、片づけきれないアトリエの中で自身の思考は行ったり来たり、考えるよりまず描いて。

藤井高志



絵を描くということは、自己表現の追求であって、その結果としての発表なのだと思います。(中略) もっと一枚の画を掘り下げることやモチーフのこと、描き方など此処に至ってあがいている自分がありました。

(6年半にわたる闘病生活と画業を全うし、2019年8月に逝去。)

渡辺貞之

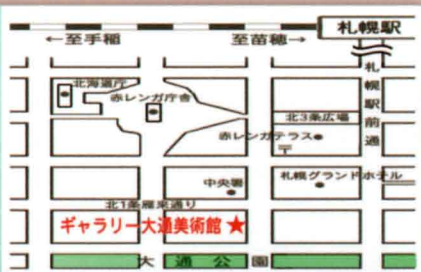


長い間、絵を描き続けてきました。いつも新しいことをという思いでした。そして近年、また試行錯誤を始めました。結論はまだですが、途中の私をご覧ください。

ギャラリー 大通美術館

札幌市中央区大通西5丁目11
大五ビル1F
地下鉄 南北・東西・東豊線
大通駅出口2・5 徒歩5分

☎011-231-1071



深川アートホール 東洲館

深川市1条9番19号
経済センター2F(深川駅横)

☎0164-26-0026

